

若者と国家－自分で考える集団的自衛権



やなぎさわきょうじ
柳澤 協二さん
元内閣官房副長官補

アメリカも懸念する
内閣の動き, 集団的
自衛権 何のため

TVの報道・コメントも?
果てさてどう考える!?



隠れファンも多い私たち。リリ
元気に歌っちゃ
いますよ〜 ♪



制服向上委員会

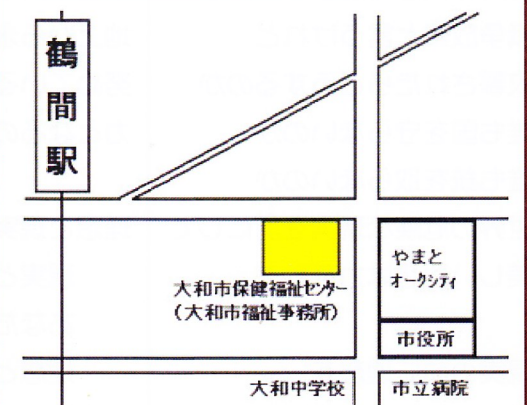
6月13日(土) 13:30~16:30

大和市保健福祉センター ホール

保育 (要予約)

チケット：前売り 800円 当日 1000円
学生・障碍の方 500円

問合せ先：憲法九条やまとの会 事務局
046-272-8880



小田急江ノ島線 鶴間駅 東口 徒歩5分
大和市鶴間1-31-7

若者と国家

自分で考える集団的自衛権



やなぎさわ きょうじ
柳澤 協二さん

1946年生まれ。東京大学法学部卒業後、防衛庁（現・防衛省）入庁。防衛審議官、運用局長、防衛庁長官官房長、防衛研究所所長などを経て、2004年～09年、内閣官房副長官補（安全保障・危機管理担当）。第一次安倍、福田、麻生政権で自衛隊イラク派遣などに関わる。NPO法人国際地政学研究所理事長、新外交イニシアティブ理事、自衛隊を活かす：21世紀の憲法と防衛を考える会代表。著書に『亡国の安保政策』、『自分で考える集団的自衛権』、『検証 官邸のイラク戦争』など。

集団的自衛権行使に関する国民の最大の不安は、これを容認することで、他国の紛争に加担する、あるいは巻き込まれるようになるのではないか、ということかと思います。安倍政権は、発生した事態が「新三要件」を満たしているかどうか政府が判断することを集団的自衛権行使の条件とし、これが歯止めになるとしています。全く、歯止めになっていないと思います。

安全保障というのは論理的な一貫性が非常に重要なんです。それが結局、御本人の「やりたい」という意志が先行しているものだから、論理的な整合性が取れないまま、物事が進んでいる。集団的自衛権は、客観的には「何かあったらアメリカと一緒に戦争するぞ」という意思表示をしていることを意味します。そうやってあまり抑止力を強調し過ぎて、緊張を高めるようなやり方は、長期的に見て、かえって日本の安全にとってマイナスの面の方が大きいのではないかと思います。

70年間1人も戦死者が出ていないというのは、実はすごいことなのです。それをもっと生かしていくことを考える方が、長期的には、世界の平和にもつながるし、日本の国益にも合う。第一それが、日本ができること、日本の身の丈に合ったことではないかと思います。 『ダイヤモンド・オンライン』より

理想と現実

作詞 中川五郎 作曲 PANTA

理想の前に現実が
どんと大きく立ちはだかる
戦争放棄と言うけれど
攻撃されたらどうするのか
誰も国を守らないのか
誰も銃を取らないのか
世界の危険な現実を前にして
美しい理想は力なし

現実の前に理想を
強く固く築き上げる
人は互いに信じ合い

平和を願い愛するもの
支配したりされること
地上から永遠になくそうと
努めているのが世界なら
力となるのは美しい理想

理想と現実
現実と理想
あなたはどうか考えますか
理想と現実
現実と理想
あなたはどうか思いますか

制服向上委員会



結成 23年目の最長のアイドルグループ
（社会派アイドルとして幅広く活動）
レパートリー 約1300曲、
CDアルバム 41枚、CDシングル 12枚